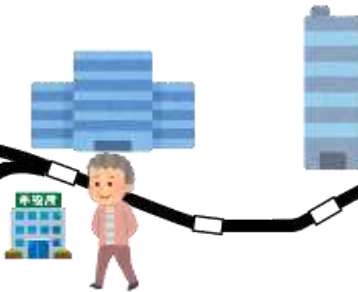


心 さえあい の ちいきづくい



令和4年度

調布市生活支援体制整備事業 報告書

～ 地域支え合い推進員 活動報告書 ～

令和5年8月

調布市 福祉健康部 高齢者支援室
社会福祉法人 調布市社会福祉協議会

目次

この冊子のねらい	1
生活支援体制整備事業とは	2
1 地域の取組と推進員の関わり（第2層）	
事例1 スマホを楽しむ会	4
事例2 子ども食堂『坂の上のばあちゃん家』	8
事例3 スタディールーム ～それぞれが居心地のいい居場所～	12
事例4 ひだまりサロン『スマイル』	15
事例5 みんなの部屋	18
事例6 地域包括支援センターと連携した取組 『10の筋力トレーニングお試し会』	21
2 市全体的な活動（第1層）	
● セカンドライフ応援キャンペーン	24
● 調布deステイローカル 常設通いの場スタートアップ事業補助金	25
● つながり創出による高齢者の健康増進プロジェクト ～CDC（調布・デジタル・長寿）運動～	26
3 総括	
結びに	27
【資料編】	
第1層・第2層地域支え合い推進員活動件数等	28
○問い合わせ先	32

この冊子のねらい

つながろう、みんなの輪

縁 ⇄ 円

みんなができることを持ち寄って「自分ごと」として、いつまでも生きがいや尊厳を
持って暮らせるような我がまち調布をつくりませんか？

地域支え合い推進員*（生活支援コーディネーター）がそのお手伝いをします。

この冊子では、令和4年度に推進員が関わった地域活動から、いくつかの例をピックアップして紹介します。これから、地域活動に参加したいと思っている人や、現在活動している人の「気づき」のきっかけになればと考えます。

※地域支え合い推進員とは・・・高齢者のニーズと、ボランティアや地域住民などの互助的な地域資源をマッチングさせることにより、生活支援を充実させる役割を持つ。具体的には、不足しているサービスの開発やサービス提供のための体制作りなどを行う。



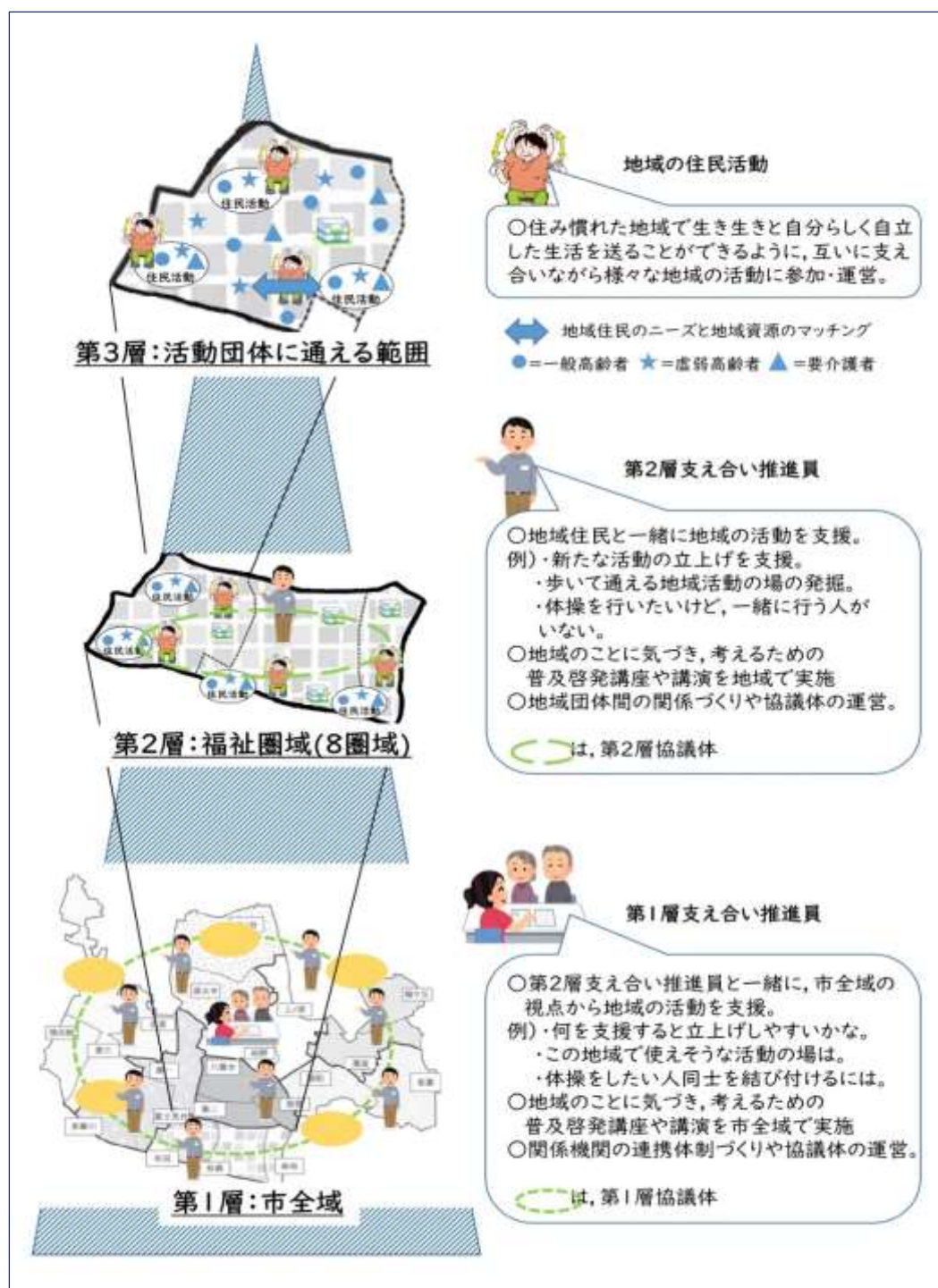
生活支援体制整備事業とは

少子高齢化が進展する中、高齢者が生きがいを持ちながら住み慣れた地域で自分らしい生活を送るためには、地域とのつながりや見守り、支え合いが必要です。

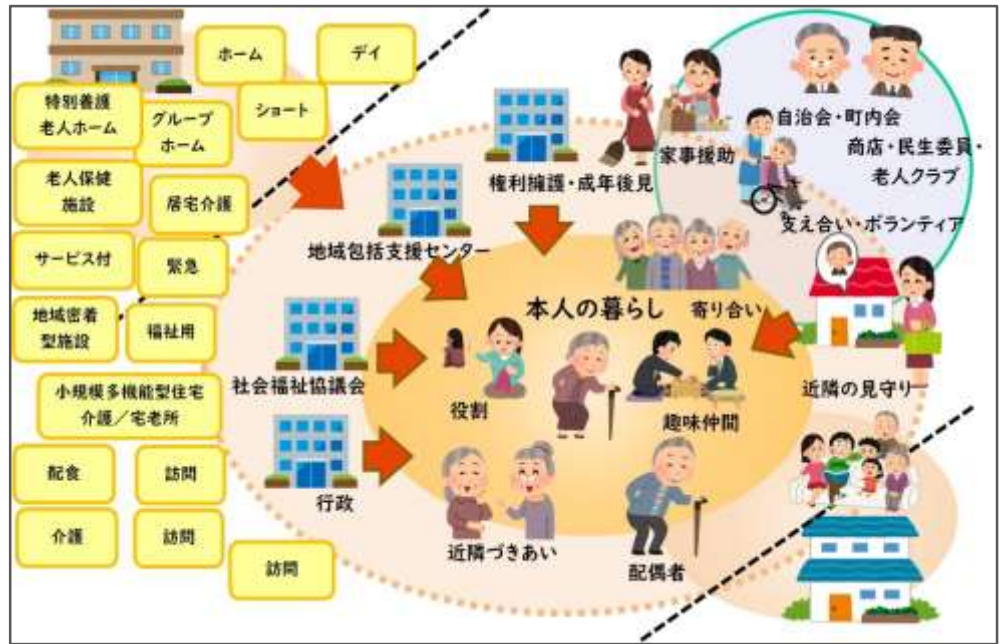
地域住民が主体となった生活支援・介護予防が図れるよう、地域支え合い推進員と地域住民や専門職・行政と一緒に学び、考え、工夫しながら地域づくりの推進をサポートする事業を言います。

調布市では平成27年4月に開始され、平成29年4月からは第1層（市全域）の地域支え合い推進員を高齢者支援室職員、第2層（福祉圏域）を調布市社会福祉協議会に委託して事業展開しています。

○生活支援体制整備事業のイメージ図



地域支え合い推進員は右図の矢印をつなぐ役割を担っています。推進員は、住民が住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けられるよう、地域住民の主体的な活動を応援したり、住民や関係機関と一緒に地域づくりを推進する「つなぐ専門職」です



○地域支え合い推進員の活動イメージ図

地域にアウトリーチ[※]します



自治会や地区協議会，ひだまりサロンなど，人が集う場に参加しています。地域の情報を共有していく中で、「実は…」と相談を受けることがあります。

移動は基本、自転車です！



活動の立ち上げ・運営のお手伝い



活動を続けていくために必要な情報を提供したり，悩みごとの相談を受けたりします。

お話を伺います



「こんな活動をしたい」，「こんなことで困っている」など，皆さんの思いをお聞きします。

一緒に考え。思いを形に



住民や関係機関，様々な団体と協力して，それぞれのできることを持ち寄り話し合います。

※アウトリーチ

窓口で待つのではなく，訪問すること

概要

- 新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）流行による外出自粛や、活動場所としていた地域福祉センター等の閉鎖によって、地域活動が休止し、高齢者同士の繋がりを絶たせ、孤立化が進むのではないかと。また、ネットが使いこなせないことで災害時に必要な情報が届かず、困る高齢者が増えるのではないかと危惧があった。
- 令和2年度に民間企業によるスマホ講座を行ったが、参加者への定着は難しかった。教わる場が身近な地域に欲しいという声が多く、地域住民同士で教え合うことができないかと考え、協議体を立ち上げた。

きっかけ

- 地域の高齢者より「スマートフォンを持っているが使いこなせない」「誰かに聞きたいけれど家族には何度も同じことを聞くと認知機能を心配されてしまう」「もっと身近な場所で教えてくれる場所が欲しい」という声が多く聞かれていた。
- 令和2年度に携帯電話会社に協力いただき、主導するスマートフォン講座を2回実施したが、講座では会社が用意してくれた端末を使用したため、自分の所持するスマホとの違いに戸惑ったり、1,2回の講座では習熟するには難しい、という感想を得ていた。携帯電話会社の協力は有難いが、高齢者一人一人の要望に沿った気軽に分からないことを聞ける場の必要性が見えてきた。

現状の確認

- 令和3年6月から地域住民向けに「ネット・スマホをもっと楽しみたい方あつまろう会（以下、「楽しむ会」という。）を毎月実施。まずはスマホやPCを使いこなしている人を対象に集ってもらい、知りたいこと・学びたいことを聞き、コーディネーターの知識や住民と一緒に調べながら繰り返しスマホの練習を行った。
- 同時にチラシや社協広報誌を使い、教え手のボランティアを募集。
- 毎月実施すると参加者は日に日に増え、参加者がまた新たな参加者を呼び、広がっていった。独居の方は、分からないことがある時に遠方のスマホショップに聞きに行くのが大変、また身近に家族がいる方でも何度も同じことを聞くと嫌がられてしまうという声が共通しており、スマホ操作に困っている方が地域にたくさんいることを実感した。

スケジュール

令和3年度 月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体			○	○	中止	○	○	○	○	○	○	○
勉強会			○									

令和4年度 月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体	○	○	○	○	○	○	○	○○	○○	○○	○○	○○
普及啓発 (スマホセキュリティ講座)				○								
シニア向けスマホ講座 活動者交流会						○						
スマホボランティア養成 講座											○○ ○	

**スマホ・インターネットを
もっと楽しみたい方あつまろう!!**

新型コロナウイルス感染症流行により、人との交流の場が変化し、オンライン上での交流・繋がりが地域に増えています。その中で繋がることができず孤立してしまったり必要な情報が届かない高齢者も多くなります。そういった高齢者へスマホ・インターネットの普及を目指し、地域の中で気軽に教え合える機会を企画しています。

【対象】
 ・スマホやパソコンに興味がある方
 ・もっと使いこなして楽しみたいと思っている方
 ・初心者に簡単な操作を教えることができる方
 ・地域活動（ボランティア）に興味のある方

参加費無料 年費200円未満
 スマホは自身の物をご持参ください
 (Wi-Fi環境のご用意はあります)

開催日時

開催日	時間	場所	内容
6/19 (土)	13:30~15:30 (会場13:00)	緑ヶ丘 地域福祉 センター	スマホ・インターネットを使って やりたいこと、知りたいことを当日 おもしろい講師のみなさんと一緒に 体験します。

定員 先着 10名 **予約制** お問合せはお気軽にどうぞ

協力 みんなDEネットサロン
(武井慈さん、椎木南さん)

申し込み先 市民活動支援センター
緑ヶ丘コーナー 折原
03-3326-4088 (月・木・土)

みんなDEネットサロン...
 のびやかに、お茶を飲みながら
 スマホやパソコン・インターネットの
 活用についてみんなで相談や、講
 義交換できる地域の場を作って
 します。



学ぼう スマホを安全に使おう 講座

不正アプリって? 無料 定員30名 (先着順)
 なりすまし? 不正サイトって どんなサイト?

2022. 7. 16(土) 10:30-12:00
緑ヶ丘地域福祉センター 大集会室
講師：山内聡さん
 (地域住民 コンピューターセキュリティ会社在籍
 スマホをもっと楽しむ会メンバー)

主催：スマホをもっと楽しむ会

申し込み先：
 廣州市社会福祉協議会 高杉・坂本
 042-481-7693
 緑ヶ丘コーナー 折原
 03-3326-4088

ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと



考えたこと	働きかけたこと	大切にしたこと
<ul style="list-style-type: none">●コロナにより地域活動が休止し、情報がネットを通じて発信されることが増えたため、高齢者など“スマホを使いこなせず困っている方”がいる。身近な地域内で住民同士が教え合える場があれば、助かる高齢者が増えるのではないかな。●若い世代の方々にも参画してもらうことができれば、世代を越えた交流の場にもなるのではないかな。●操作方法を教わった高齢者が、別の高齢者へ伝えて、その繋がりが大きなネットワークになるのではないかな。	<ul style="list-style-type: none">●CSW(地域福祉コーディネーター)、ボランティアコーディネーターと連携し、第1回「もっと楽しみたい方集まろう会」にひだまりサロン「みんなDE ネットサロン」を招き、市内のスマホに関する活動紹介を行った。こうした活動が「緑ヶ丘」にも欲しいという声が多く挙がった。●広報誌を通じて、新たなボランティアにも参画してもらい、サイバーセキュリティの知識を活かし「スマホを安全に使おう」講座(令和4年度普及啓発)を開催した。	<ul style="list-style-type: none">●長く地域に根付かせるためにも、教え手となる方は地域住民が良いだろう。●楽しむ会に参加した方はグループ LINE に任意加入してもらい、会を通じて LINE 操作の練習に活用した。●活動外で困った時は LINE 上にメッセージを送信すると、解決策を知る会のメンバーから助言を受けることができるなど重宝され、活用している。

活動者の感想

- 「身近に教えてくれる人がいることがありがたい。」
- 「連絡できなかった孫に連絡ができてとても嬉しい」
- 「スマホを通して新たな繋がりができて楽しい」
- 「わからない時に優しく教えてくれるので助かる。この活動がずっと続いて欲しい」
- 「在宅勤務で人と交流する機会が減り、参加していてとても楽しい。また自分の知識が活かせるので参加して良かった」

今後の展望

- 抽選制の地域福祉センターの貸出室を「毎月の活動で安定して利用することが難しい」ことから、教え手ボランティアの方が会の代表になり、地域福祉センターの利用団体として登録をすることで、安定して利用することができるようになった。月1回開催しているスマホを楽しむ会に繰り返し参加し、知識や技術を得たもっと頑張りたい方と、初めて参加する方が、一緒に活動することが難しい状況になってきた。
- 上記のことから、「もっと広く初心者に合わせた個別相談の回もあると良い」という意見が聞かれたため、回数を月2回に増やして開催したい。
- より地域に開かれ、「交流」を大事にした運営を行っていく会になるよう、次年度に「ひだまりサロン」としての申請を予定している。
- 今後も広報誌やスマホボランティア養成講座を活用し、教え手のボランティアを発掘・育成していき、地域の担い手を増やしていきたい。



スマホを楽しむ会

知りたいこと、困りごと、やってみようことを
お伺いに教えあいながら楽しく
体験、習得しましょう。

- ☐ 文字の打ち方を知りたい
- ☐ LINE（ライン）でビデオ通話してみたい
- ☐ スマホの万歩計アプリを使ってみたい
- ☐ スマホでいろいろなことができるのか知りたい

参加費：無料
年齢：どなたでも
場所：緑ヶ丘地域福祉センター

・個別相談会
第2土曜日 10:00-12:00
こちらは1対1で個別にご質問、ご相談いただける会です。
初心者の方も歓迎です！
開催予定日：1/14、2/11、3/11、4/8

・チーム緑ヶ丘
第3土曜日 13:30-15:30（定員20名）
参加者同士で和気あいあいと聞いたり教えたりします。
開催予定日：1/21、2/18、3/18、4/15

お申し込み：
スマホを楽しむ会 山内まで
080-7824-9662
※つながらない場合はお断りします。

主催：スマホを楽しむ会
協力：
障害者社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 福本
地域支えあい推進員 高野
市民生活支援センター ボランティアコーディネーター 別所

2022年12月14日現在

事例2 子ども食堂

「坂の上のばあちゃん家」

若葉・調和
エリア

地域支え合い推進員：吉田

概要

- 「たまには、ばあちゃん家でゆっくりして、ごはんを食べていったら？」という地域住民の“思い”をコンセプトに「子育て中の親子が安心して、楽しく食事ができる居場所づくりとして、スタートし、月1回の活動を実施した。
- ゆうあい福祉公社の地域密着型認知症ディサービス「ぶちぼあん」施設(以下「ぶちぼあん」)を閉館後の夜間帯時間に借りて、子ども食堂を開催した。

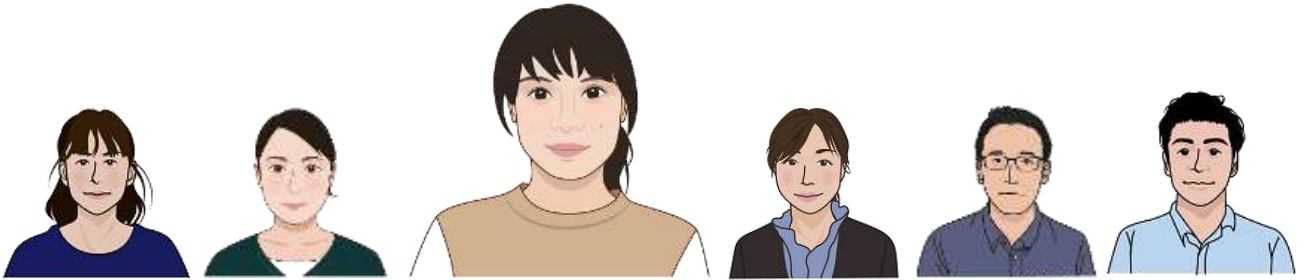
きっかけ

- 地区協議会を通じて、若葉小学校のPTA会長と知り合う中で、「共働きやひとり親など頑張っている保護者を支援できるような子ども食堂を地域に作りたい」と相談をいただいたことから、活動の立ち上げに向けた話し合いを開始した。
- PTA会長の呼びかけに賛同した民生児童委員、子ども会の世話人や自治会、地区協議会から続々とメンバーが集まり、子ども食堂の屋号にもなった「子ども達に美味しいご飯を作って食べて欲しい！」という思いを持った『ばあちゃん』達が集い、活動が始まった。

現状の確認

- 『ばあちゃん家』には、「じいちゃんを手伝いに行ったらダメなの？」というユーモアのある参加の申し出をきっかけに、子どもの見守りを担うじいちゃんや車で食材や荷物の運搬を担うじいちゃんも集いつつある。
- 料理が得意、自動車の運転が手伝える、子どもと関わる事が好き、など仕事は引退したがまだまだ地域のために何か力になりたい！というシニア世代の活躍の場としての居場所にもなるのではないか。
- この活動を通じて、若葉・調和小地域の「高齢者が支援される存在でなく、地域を支える存在でもある」という強みが、地域共生社会へも繋がるのではないか。

ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと



考えたこと	働きかけたこと	大切にしたこと
<ul style="list-style-type: none">●「困っている世帯に支援したい」という想いと「地域の交流の場」にしたいという想いのどちらも実現するにはどうしたらよيدらうか。●日々の訪問支援を通じて、多世代が集う地域の食堂の必要性を感じる機会が増えたため、皆さんを集めて協議体の実施を考えた。●調布市子ども政策課が実施する「子どもの食の確保事業補助金」が利用できるのではないか。●市内の他の子ども食堂の実施状況など取組を考える中で、お手伝いできることがあるのではないかと考えた。	<ul style="list-style-type: none">●「一軒家で家庭的な雰囲気大切にしたい」という意見から、「ぷちぽあん」に施設借用の依頼と日程調整、団体登録のサポート。●協議体を利用したミーティングの進行など。●これまでの地域支援を通じて構築した関係をもとに地域住民やNPO法人、企業が行う食料品(野菜や米)の寄付とばあちゃん家の活動をつなげた。●日頃の支援や相談を介して関係性を持つ、子ども家庭支援センターすこやか、地域包括支援センター仙川、民生児童委員協議会を通じて、広報や活動の紹介を行うことで、ばあちゃん家の活動の輪を広げた。	<ul style="list-style-type: none">●継続的な活動を行えるよう、運営メンバーが「やりがい」、「楽しさ」を感じることができるようになりたい。●「困っている世帯・家庭のお手伝いをしたい」という当初のコンセプト・想いを大切に活動の応援をしたい。●運営メンバーの『都合や体調によって参加できない日がある。お休みは「お互い様」の気持ちを忘れずに、その時に動けるメンバーで細く長く活動を続けていくことを目指そう。』という声が印象的であった。

スケジュール

月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体		○	○	中止	中止	○	○	○	○	○	○	○
プレ実施								○				
保険の申請							○	○	○	○	○	○
調布市子どもの食の確保事業補助金									○	○	○	○
活動開始									○	○	○	○



運営メンバー・子ども食堂参加者の感想

<運営メンバー>

- 思った以上に申し込みがあったことに驚いた。全ての世帯を受け入れたいと思うが衛生面や安全面などの課題もあり、現時点では難しい。
- 「子ども食堂」ではあるが、ゆくゆくは全世代の孤独に寄り添う地域のコミュニティの場にしていきたい。
- 子どもやお母さんたちが大勢で食事をしている場面を見るのはとても微笑ましい。地域でこういった場が必要とされていると改めて感じた。食事を通して話をするという場は誰にとっても息抜きの機会になるのではないかと思う。

<子ども食堂参加者>

- 子どもが料理のお手伝いをするのを楽しみにしています。母もばあちゃんの家庭的な味にほっとします。

今後の展望

- 一軒家で家庭的な雰囲気がある「ぷちばあん」だが、元気な子ども達が体力を持て余し、狭い空間で走り回り、ヒヤヒヤする場面も見られる。子ども達の過ごし方や見守りについて検討していきたい。
- 「子ども食堂」の参加対象は子どもとその保護者であるため、高齢者から「参加したい」と相談があった際は「見守りスタッフとしてなら参加可能です」と返答している。いずれは、1人暮らしの高齢者など、対象に限らず参加できる場にしていきたい。
- 公式LINEを通じた予約制、20食までとしているが、実際には50食以上の申し込みに対応し、予約を忘れた飛び込みの参加も受け入れている。多くの住民に活動を知っていただき、食事を通じた交流が広がっていることを嬉しく思う。
一方で、「本当に必要としている世帯や困っている世帯に支援が届けられているのか」という葛藤を抱えてるメンバーの方の思いにも寄り添いながら、活動の方向性を模索していきたい。
- 「坂の上のばあちゃんち」を“地域の交流の場”として継続することで、“困っている世帯”に繋がり、支援していける場にもなることを、運営スタッフの無理のない範囲で活動を継続し、引き続き目指していきたい。

事例3 スタディールーム

～それぞれが居心地のいい居場所～

北ノ台・深大寺
エリア

地域支え合い推進員：浜口

概要

- 誰もが利用できる場所として、出入り自由でその人なりの過ごし方ができる「場所」が「あったらいいな」の思いを地域住民と一緒に実現に向けて検討を進めた。結果として、乳児とその親、小中学生、働く世代、高齢者や福祉関係者と多世代が参加した。
- 開催場所や、時間、内容を1つに固定せずニーズを検討しながら「あったら行ってみたい」「この企画が面白そう」のアイデアを1つずつ形にしていった。
- 常設の居場所ではなく、定期的な開催に加えて、地域に向けたイベントも行い広報を兼ねた。

きっかけ

- 地域の方から、夜間に集合住宅の集会室で子どもから高齢者まで誰でも、勉強や趣味活動など好きなことをして過ごせるスペースをできないか考えている方がいると紹介を受けた。
- 活動場所の確保はできそうであるが、その他の広報や活動内容の進め方等について、相談の場を持ちやってみようという地域活動を一緒に検討することになった。
- 活動者が、子供の時に家の外でも勉強や本を読める場所があって居心地が良かった、という経験が活動のきっかけになっている。

現状の確認

- コロナによる人数制限の影響で、夕方以降の居場所や勉強ができるスペースといった行き場を失くしている人がいた。
- 北ノ台・深大寺エリア周辺から、利用できるフリースペースのような場所は「距離が離れている」「交通アクセスが悪い」「夜になってからの帰宅に不安がある」などの理由で利用が難しかった。
- 活動者の周りには、協力してくれる繋がりや地域活動を大切に思う考え方が根付いている。
- 夏休みや春休みなど長期休暇の開催時間や、活動内容を通常の開催時と違う楽しめる企画をやりたいという思いがある。

スケジュール

月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体		○		○		○		○		○		○
プレ実施		○	○									
活動開始			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
活動 PR イベント				○			○					○
活動報告講演会												○

ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと



考えたこと

- 新しい活動を立ち上げることに對して、相談できる地域のつながりがある。
- 広域からの参加ではなく、近隣の徒歩で来られるような範囲の方に来てほしい。
- 周知の方法を悩んでいる。
- スタディールームのような場所があったら行ってみたいという声がある。

働きかけたこと

- やってみたい活動内容をお聞き、必要な準備物や広報などの協力できる部分のお伝えと開催に向けたスケジュール作成を一緒に行った。
- 他の居場所の活動やフリースペースにはどのような物があるのか情報提供をした。

大切にしたこと

- スタディールームがあったらいいなと思った「きっかけ」を大切に共有し、思い描いているものと地域のニーズの確認を一緒に行うようにした。
- 小規模の活動から始め、人を集めることを目的にせず参加してくれた人や活動者も誰もが過ごしやすい時間になるよう心掛けた。

活動者の感想

- 以前より顔見知りの人が増えてよかった。
- いろんな人と話すのが楽しく、家族も応援して活動を手伝ってくれるようになった。
- スタディルームは、居場所がいいと思っている。人生は出会いの連続だと言うし、そんな場所になったらいいなと思う。

今後の展望

- 今まで取り組んでいない活動内容への広がりを持たせる。具体的には、本のおしゃべり会やゲーム大会を開催したい。
- 通常の自由に使える時間に加え、夏休みなど長期休暇にはイベント的な開催を引続き行う。その内容によって子どもや、大人、高齢者など幅広い年齢層が気軽に参加できるきっかけを作り地域の繋がり作りの1つとする。
- 活動内容や広がりも大切だが、手作りの活動を継続していきたいため、現状は助成金等の活用はせず、無理のない内容で継続していきたい。



☆スタディルーム（自習室）のお知らせ☆

○集会所で誰でも利用できるスタディルーム（自習室）をオープンしています。

○夏休みは毎月曜の9：00～12：00開室します。

○勉強、読書、宿題等にご利用下さい。もちろん誰でも無料で利用できます。

○マスク、飲み物をご持参ください。

※コロナ対策として1人1机の利用です。

※会費はかかりません。

※換気扇の使い方、窓の閉め方、ゴミの分別



事例 4 ひだまりサロン 「スマイル」

第二・八雲台・
国領エリア

地域支え合い推進員：矢田

概要

- 地域の方から、大量の「布と糸の寄付をしたい」という希望があり、活用先を探す中で、手芸ボランティア団体でも活動されている民生児童委員にマッチングしたところ、「物忘れのある高齢の方でも、針と糸を持つときれいに手が動くのよ。そんな人たちが気兼ねなく来られて、住民の人たちが繋がれる場所ができれば素敵だわ!」という“思い”を大切に、手芸をツールとした集いの場づくりを行った。

きっかけ

- 民生児童委員より、「担当地区の住民が布や糸の寄付先を探している」との話を伺い、一緒に自宅を訪問。男性の話を聞いたところ「亡くなった妻が使用していた布や糸が自宅にあり、福祉施設や地域の人たちで活用してもらえると、妻も喜ぶと思うんだよね。」と相談をうけ、綺麗に保管された、たくさんの布や糸をご寄付いただいた。
- 一緒に訪問した民生児童委員も「状態も良く、活用しないのはもったいないね。」と話され、手芸が得意な同じ地区の民生児童委員を紹介いただいた。
- 「寄付いただいた布や糸を地域の人たちが手芸をしながら集まる活動をしたらどうか?」「おしゃべりをしながら作業すれば、物忘れのある方でも昔を思い出してチクチクとお裁縫ができる」「できることが少なくなったと気持ちが塞ぎ込んでいる方々も能力を発揮できる場があると素敵だと思う」というアイデアをもとに住民同士が交流する活動の立ち上げについて検討を行った。

現状の確認

- 当日の手芸の材料については、「活動時間2時間の中で作り上げることができて、持ち帰れる物を提案した方が、達成感も得られる」とのことで、作品のキットを準備し、開催日にスタッフが説明をして作業をしてもらうこととした。



ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと



考えたこと	働きかけたこと	大切にしたこと
<ul style="list-style-type: none"> ●ハ雲台エリアでは10の筋力トレーニング(以下、「10筋」という。)のサロンを開催している。その中で、体操以外の集う場がほしいとの声を聞いており、広く色々な方が参加できる場所を立ち上げたい。 ●活動場所は、参加者同士が顔を見ておしゃべりをしながら作業ができる大きさと、階段等もなく来られる場所が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動の準備に協力してくれるスタッフ・人材の確保。 ●活動運営の方向性を一緒に確認しながら計画。 ●「交流」に重きを置く活動であるため、ひだまりサロン事業の利用を提案。 ●地域包括支援センターゆうあい等へ活動の様子や情報を共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ●『高齢の方は、物忘れをしても針と糸を持つと手が自然と動く』という活動に対する代表の“思い”を知り、大切にしたいと思った。 ●「手芸をする人もしない人も気兼ねなく参加ができる場をつくりたい」という気持ちを大切に、スタッフの皆さんが無理なく活動が行えるように進めた。

スケジュール												
月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体								○	○	○		
プレ実施											○	
活動開始												○
ひだまりサロンの紹介										○		
寄付の相談							○					

参加者の感想

- 自分で作った巾着や小物は愛着が沸く。達成感を感じられてうれしい!
- 毎月回を重ねるごとに上達しているのを感じる。
- 気軽な気持ちでできたけれど、素敵な作品が作れて楽しかった。毎月参加できたら嬉しい
- チクチクしながら、みんなと情報共有やおしゃべりができて毎月が待ち遠しい。
- 気軽に使えるビーズのネックレスがとても素敵で、また違う作品を作りたい。

今後の展望

- 活動を行う中で、手芸が好きではない人も気兼ねなく参加できて、何をしなくてもこの場にいるだけで良いし、お話をしに来るだけでも歓迎の、集いの場として活動していきたい。との気持ちがみなさんからうかがえ、ひだまりサロンに登録を行い、広く参加者を募っていくこととした。
- 今後は手芸だけではなく、簡単な健康体操や学びの機会なども取り入れていきたい。
- 参加しているみんなで活動の内容を考えて、無理なく長く続けていくことが目標。



事例 5 ～みんなの部屋～



染地・杉森・布田
エリア

地域支え合い推進員：北島

概要

- 「徒歩圏内に集う場があったらいいな」、「自治会や管理組合の活動を超えたつながり合いを持ちたい」、「買い物に行きがてら交流をしたい」等々の声を実現しようと、住民や専門機関が寄り集まって、多摩川住宅内の商業テナント(100㎡)を賃借し、調布市と狛江市の2市にまたがる住民の居場所づくりを行った。
- 民生児童委員、商店街、地域包括支援センターときわぎ国領、慈恵会医科大学、東京都住宅供給公社、地域活動(たまのて等)、染地小地区協議会、行政、社会福祉協議会が連動した拠点づくり。

きっかけ

- コロナの影響で、中止となった夏祭りに代わる地域イベント準備の休憩時間に、商店街の喫茶店マスターから「商店街内に空き店舗ができた。地域活動などで利用できたら良いよね～」という本気とも冗談とも取れるお話があった。
- 面白い話と思いつつ「ニーズはあるのか?」と半信半疑であったが、その場にいたマスターと民生児童委員から背中を押され、参画するイベントを通じて、住民や地域活動をする方々に、福祉に関する関心アンケートを実施した。

現状の確認

- 現状を把握するために、多世代 162 名に協力いただき、アンケートを行う中で多様な社会課題への興味・関心がうかがえるとともに、地域の中に「年代に関係なく集まれる居場所」への関心が高いことが分かった。

スケジュール

月/内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体							★	★	★★	★★	★★	★★★ ★
お BENTO フェスタ		★	★	★	★	★	★★	★				
アンケート実施						★	★	★				
調布市生活困窮者支援 団体活動補助金							★	★	★	★	★	★
プレオープン												★
フードパントリー												★

ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと



考えたこと

- みんなの部屋で、より多くの住民が円滑に活動するために、以前から連携してきた民生児童委員、商店街、地域包括支援センター、慈恵会医科大学、住宅供給公社、地区協議会等も含めて連動できたら良いのではないかな。
- 活動者同士が交流し、一緒に考えることで、地域住民のニーズを充足できる新たな活動が生まれるのではないかな。

働きかけたこと

- 各機関へ声を掛け、協議体を開催し、経緯、アンケート結果の共有、今後について意見交換を実施。
- 商業テナントの賃借するために、住民や自治会と一緒に嘆願書を作成し、テナントオーナーである東京都住宅供給公社へお願いをした。
- テナント賃借の道筋を整えた後、調布市が実施する「生活困窮者支援団体活動補助金」の交付申請をした。

大切にしたこと

- 協議体では、“専門職による住民への押し付け”にならないよう心掛けた。
- 多様な住民が参加し、それぞれの思惑・やってみたいことへ挑戦する機会になって欲しい。
- 協議体の参加者全員で「何が叶えられるか」「どうしたら楽しくできるか」を話し合い、皆から出た意見の実現可能性を大切にした。
- 「まずは、活動者が楽しい」と感じてもらいたい。



選択肢	合計	小計(男)	小計(女)
年代に関係なく集まれる居場所	37	14	23
一人暮らし高齢者見守り	23	7	16
ちょっとしたことを頼む相手	19	4	15
認知症のある方・家族の集いの場	13	3	10
分野に限らず相談できる機関	12	3	9

活動者の感想

- 様々な住民や団体、機関が集まって活動を開始するために各自が得意なことを持ち寄って考えた経緯もさることながら、柔軟な対応をしてくれた東京都住宅供給公社に感謝したい。
- 作って終わりではいけない。住宅の内外問わず、近所の高齢者や子育て世代、学生など多様な世代と交流し、相互の助け合い活動をみんなで実現していきたい。
- 訪ねて来た方が、地域や活動に参加したいと思える、きっかけになると嬉しい。

今後の展望

- 3月に実施したプレオープンでは、100名程の住民・専門機関が参加した。今後は協議体で多様なアイデアを募りながら、日中の居場所と週末に開催するイベントや講座を軸に地域での活動を実施し、新たに活動したい方や活動者にも参画していただきたい。
- 補助金は単年度で終了するため、今後の活動費(家賃・光熱費等)をどのように確保するかが課題。

アンケート



事例 6 地域包括支援センターと連携した取組 「10の筋力トレーニングお試し会」

第三・石原・
飛田給小エリア

地域支え合い推進員：佐藤

概要

- 地域への訪問支援を通じて、高齢者などが「外出したいけれど、コロナの影響で休止した活動が再開されていない」という声を知るとともに、活動者の「再開したいけれど不安」というニーズを充足するべく、地域包括支援センター（以下、「包括」という。）をはじめ、他機関連携で活動の再開を支援した。
- 活動が再開する過程を通じて、新たなニーズに合わせた地域活動の立ち上げを行い、包括と連携して「10の筋力トレーニングお試し会」を地域福祉センターで3回開催した。

きっかけ

- 「参加していたグループがコロナで休止になり活動ができない」、「健康づくりのために体操をしたい」という住民の声を聞くことが増え、支援の必要性を感じ、関係する機関と情報共有を開始した。
- 包括との連携会議を通じて、これらの内容を共有し、住民・包括・ボランティアコーディネーター、地域支え合い推進員が連携して10筋お試し会を企画することが決まった。

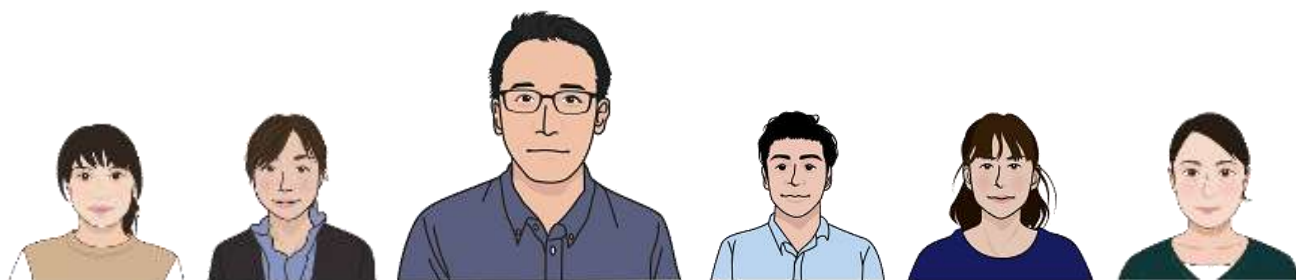
現状の確認

- 休止していたグループの代表をはじめ役員へ聞き取りを行う中で、依然として、外出を控えるといった意識はありつつも「体を動かしたい」というニーズが多く聞かれた。
- 調べてみると再開のタイミング、活動を行う上での配慮点などに不安を感じて、活動の再開ができず、休止している団体が過半数あった。
- これらの理由で、高齢者をはじめ地域の活動に参加することができる場所が少ない状況があった。

スケジュール

月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体	○	○ ○	○ ○	○ ○								
10の筋力トレーニング お試し会	○	○	○									
お試し会 アンケート調査		○	○									
既存グループの再開				○	○	○	○	○	○	○	○	○
新グループ活動開始					○	○	○	○	○	○	○	○

ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと



考えたこと

- コロナ感染の不安を感じている方と同程度「体を動かしたい」「介護予防がしたい」といった方がいるため、どちらの方へも寄り添って活動を模索できないか。
- こういった状況だからこそ、新たに地域活動へ参加するきっかけになるのではないか。
- 新たなグループの立上げのみでなく、まずは休止している既存の活動へ再開の働きかけを通じて、活動者の悩みや不安を共有してもらえりきっかけになると嬉しいと考えた。
- 併せて、これまで関係性が希薄な活動や活動者と信頼関係を築ききっかけにしたい。

働きかけたこと

- 包括と協議し、まずは活動者の意見を伺うために『10 筋お試し会打合せ』を企画し、休止しているグループの代表へ声を掛け、参画を促した。
- 打合せでは、各団体が活動を行う際の状況の確認、お試し会に期待することや活動を継続している団体が行う工夫といったことを一緒に検討した。
- 地域福祉センターの来館者への働きかけに関しては、ボランティアコーディネーターに協力を要請し、お試し会の開催チラシを広く周知することをお願いした。

大切にしたこと

- 実施すること自体が目的ではなく、地域の活動へ働きかけて、活動の不安や負担を聞き取ることに重きを置いた。
- 参集型活動の実施が不安視されることは理解しつつも、地域の声や気持ちに寄り添いながら、「やらない」という選択以外を模索する過程が重要なのではないかと感じた。

参加者の感想

- コロナ感染を恐れて外出を控え、自宅で過ごす方が身体によくない
- 継続して体操の活動に参加したい
- こんなに集まってやりたい人がいるとは思わなかった
- 家族以外の人と久しぶりに世間話をする事ができた
- みんなで集まって体操をする楽しみができた
- 家族からは「高齢だから」を理由に、外出を控えるように言われていたが、他者と交流することは楽しい

今後の展望

- 現在、月2回の活動となっているが、参加者からは「毎週やりたい」といった前向きな声が多数寄せられているので週1回実施に向け、引き続き協議していきたい。
- 会場の収容人数に余裕はあるものの、体操に使用するイスが15脚のみで、参加者全員へ行き渡らないことがあるため、施設内の他の部屋の物品を貸借するといった工夫が必要だと感じている。
- 毎週、顔を合わせる中で“ゆるやかな見守り”の関係性が築けると嬉しいと感じている。

住民主導型介護予防事業「鬼石モデル」
**高齢者の暮らしを拡げる
10の筋力トレーニング**

10の筋力トレーニングとは
立つ、座る、歩く、まわく、拾う、といった生活動作を保つことを目的とした簡単なトレーニングです。体調に合わせて、ご自分で調節しながら、友だちや仲間、どなたでも一緒に取り組めるトレーニングです。

日程：4月26日（火）、5月11日（水）
5月24日（火）
時間：いずれも14:00～15:00
定員：20名（申込順） 参加費：無料
場所：西部地域福祉センター 大集会室

●当日はマスク着用、感染症対策をお願いいたします。
●体調が優れない際は、無理をせずにお休みしてください。
●感染症の状況により、中止する場合がございます。

企画：地域福祉支援センター ちようみの里
協力：調布市社会福祉協議会
申込・問合せ：市民活動支援センター 西都コーナー 042-484-2285



市全体的な活動(第1層)

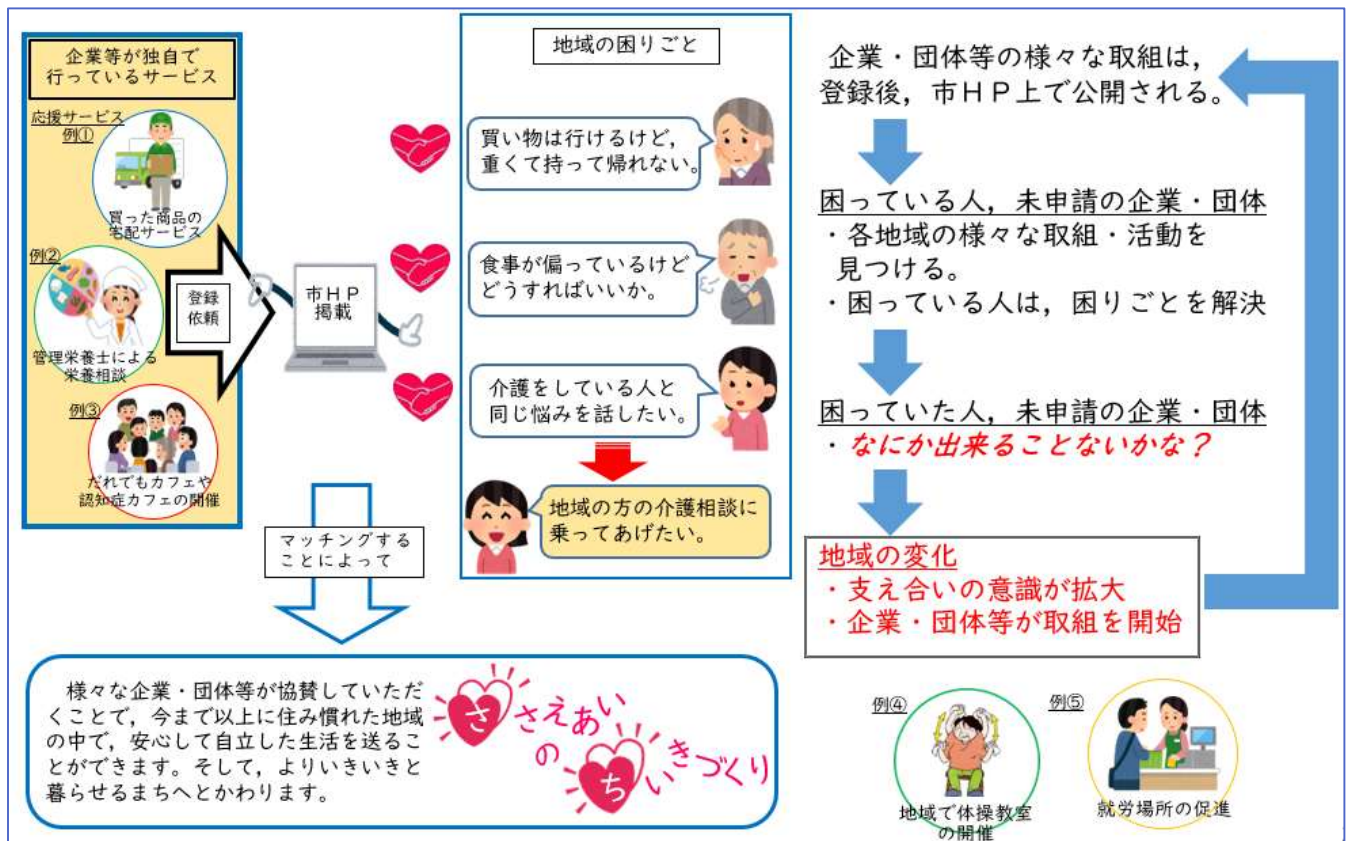
セカンドライフ応援キャンペーン



「セカンドライフ応援キャンペーン」は、高齢者が自立した生活を送ることができるよう、企業や地域団体等が行う独自の支援、サービス、地域活動等を集約し、公表するキャンペーンです。多様な取組等を集約し、見える化することで、その取組を必要とする人とのマッチングを支援することが出来ます。また、多様な取組等を行う企業等とのネットワークを構築することで、支え合いの地域づくりを推進します。

また、セカンドライフ応援キャンペーンのセカンドライフとは、辞書では「第2の人生」、「特に定年退職後の人生」となっていますが、本キャンペーンでは、高齢者に限らず、これまでの生活の中心であった仕事や家事、育児などに区切りがついたことで始まる新たなライフステージと定義しています。具体的には、「親の介護を始める」、「定年退職後に地域活動を始める」、「今までやったことのない趣味活動を始める」、「地域のボランティアを始める」などの新たなライフステージを応援するものです。

～セカンドライフ応援キャンペーンの流れ～



このキャンペーンを協賛する企業・団体の数は令和5年3月31日現在で、見守り活動が銀行や事業所などの71団体、活動場所の提供が特別養護老人ホームや銀行、薬局の5団体、生活支援サービスとしてスーパーで行っている買った商品の配達等は13団体、活躍の場が3団体、介護予防活動支援が8団体、その他、スマホ講座や多世代交流の場などが6団体の合計106団体です(一覧はP28の【資料編】または右ページの右下から市ホームページ参照)。令和4年度は新たに2企業・団体に「見守り活動」、1企業に「活動場所の提供」「介護予防活動支援の実施」で登録いただきました。

●協賛企業・団体との連携

【リハビリデイ・すまいるウォーク】「活動場所の提供」

地域包括支援センターちょうふ花園と連携し、デイサービス終了後に麻雀卓も含めお貸出しいただき、麻雀教室を開催しました。

【株式会社くらしの友】「活動場所の提供」

営業所	実施内容	【連携】地域包括支援センター
国領総合斎場	<終活講座>①自分ノートの書き方 ②最近の葬儀事情について③遺影撮影会	ゆうあい
	“10の筋力トレーニング”お試し会	
調布総合斎場	“10の筋力トレーニング”お試し会 & 終活講座	ときわぎ国領

【明治安田生命保険相互会社】「介護予防活動支援の実施」

- ・講座の提供・調布市老人クラブ連合会で年3回実施している“みんなの健康教室”において、『最適な「睡眠」を考える』という講座を実施。
- ・大人の塗り絵の提供・11/23(祝)国領わいわいまつりや、わいわいサロンのグループに提供いただき、自社主催の塗り絵コンクールへの申込みをサポート。
- ・健康測定機器の貸出し・地域包括支援センターが主催・参加するイベントで健康測定機材を活用。

日程	イベント名	健康測定機器	【連携】地域包括支援センター
9/27(火)	9月秋のつどい場	血管年齢, ベジチェック 骨健康チェック(骨密度)	ゆうあい
11/30(水)	認知症予防運動と健康チェック測定会	血管年齢, 自律神経	至誠しばさき
2/26(日)	健康フェスティバル	ベジチェック, 脳年齢	仙川
3/12(日)	調布まち活フェスタ	ベジチェック, ヘモグロビン	ときわぎ国領

【東京ヤクルト販売株式会社】「介護予防活動支援の実施」

- ・「おなか元気教室」の提供・市民の活動団体の場において、出前講座を実施。

日程	団体	参加者	【連携】地域包括支援センター
1/10(火)	10筋グループみどりの会	11名	ゆうあい
3/22(水)	しばさき彩オレンジカフェ	16名	至誠しばさき

常設通いの場スタートアップ事業補助金

令和3年度から始まったこの補助金は、住民からの相談を受け、専門職につなぐことのできる相談体制を有する通いの場に対し、立ち上げや運営にかかる費用の一部を補助するものです。この事業は「常設」「スタートアップの2年間限定」に絞って、市、社会福祉協議会と協働が可能な人材・団体の発掘・育成を目指すところに特色があります。令和4年度は昨年度に引き続き「しばさき彩ステーション」と「POSTO」に加え、新たに「ふふ富士見」に交付しました。次年度以降も、誰もがふらっと入れる居場所の創出を目指し、住民・企業・団体と相互連携して参ります。

つながり創出による高齢者の健康増進プロジェクト ～CDC（調布・デジタル・長寿）運動～

●CDC運動

調布スマートシティ協議会のメンバーである、国立大学法人電気通信大学、アフラック生命保険株式会社、調布市による「つながり創出による高齢者の健康増進事業～CDC（調布・デジタル・長寿）運動」は高齢者を中心に、現役世代の参画も視野に入れ、「場所」・「人」・「コンテンツ」の「つながり」を促進することで『健康寿命の延伸』と『主観的幸福度の向上』を目標としています。

なお、東京都の「子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業」を活用して実施している取組です。（令和3年度～令和5年度まで）

●百楽けんこう講座

貸出しするタブレット端末を使用して、自宅でプロのトレーナーによる軽い運動指導、食事のレクチャーや、デジタル格差解消のためのデジタル機器の使い方指導、写真共有ゲームによるコミュニケーション等を実施。対象は65歳以上、合計153名の方にご参加いただきました。

●デジタルリビングラボの開設・運営

深大寺と染地において、デジタル格差の解消を図るための交流拠点を開設しました。デジタル機器への抵抗感をなくすため、楽しく健康状態を測定できる機器（体組成計、反応測定を行うスープリュームビジョン、ベジメータ、認知機能・ストレスチェック・転倒リスクの測定器等）を設置。誰もが訪れやすく、人とのつながりが感じられる温かい空間で、楽しくデジタル機器に触れられる居場所を展開しています。

CDCの情報は調布スマートシティ協議会のホームページ内の特設ページでご確認いただけます。



<PCサイト>



	深大寺リビングラボ	染地リビングラボ
開設日	令和4年7月13日	令和4年10月25日
場所	深大寺東町6-27-28 深大寺リビングラボ	染地3-1-435 メディカルガーデン203
開業時間	水・金・日(※) 午前10時～午後4時まで ※日曜は不定期	火・金・土 午前10時から午後4時まで
来訪者数 (R5.3.31時点)	719名	176名

令和3年度から第2層の地域支え合い推進員が4名体制に、令和4年度からは6名体制に段階的に拡充されてきました。令和2年度と比べると2年間で事業規模が3倍になったわけですが、本事業の性格を考えると、単純に成果を3倍見込むことはできません。というのも、地域支え合い推進員の業務とは、表面には出てきにくい水面下における住民や関係機関との細かなやり取りの蓄積が時間をかけて具体的な取組として表面化するからです。

ところが、本報告書からは、6つのエリアで着実に成果が上がっていることが確認できます。その背景として、第1に、市内の先行事例が蓄積してきたことで、新規事例にとって参照可能な材料が豊富であるという点が考えられます。地域の取組には教科書がありません。基本的には地域の中から出てきた課題や不満、そして「もっとこうなったらいいのにな」というような希望が言語化され、共有されることで、徐々に住民の思いが形となり、その思いに基づいて行動を起こすことで具体的な取組になります。そういう意味では、何の取組ができるのか、何に取り組みればいいのかよくわからず、暗中模索の期間がしばらく続くことは少なくありません。その暗中模索の期間に、コーディネーターが他地域の事例など参照可能な材料を提示することがありますが、他市の事例の場合、規模の違いや風土の違い、その自治体独自の制度など、「違い」に注目してしまうと、調布では同じことは難しいという考えに至ってしまうことがあります。その点、地域支え合い推進員が調布市内で実際に関わってきた事例が蓄積されてきたことで、先行事例による効果、すなわち身近な事例を参照することで、自分たちの取組に結びつけて想像しやすくなったという効果から、新たな取組が生み出されてきたものと思われま

す。第2に、第1層、第2層ともに、生活支援体制整備事業を推進するためのノウハウがコーディネーターの中に蓄積されてきたことで事業を推進する速度が上がっているという点も考えられます。本報告書を見ると、配置1年目の2つのエリアにおいても1か所は10ヶ月ほど、もう1か所は約半年で住民主体の取組を生み出しました。2つのエリアともに以前から社協の地域福祉コーディネーターが配置されていたため、住民との関係性がある程度構築されていたという前提条件はありますが、その点を考慮しても、1年も経たずに子ども食堂やサロンを立ち上げるということは、本事業の過去の事例と比較しても、飛躍的に速度が上がっているように思います。先に述べたように、本事業は成果達成の速度を競うものではありませんし、取組が早く生み出されるということは、むしろ住民がそのプロセスを通して関係を構築する時間やリーダーシップを育む時間が短いことになるので、活動を続ける中で今後つまづくことがあるかもしれません。たとえそうであったとしても、住民の思いを具現化するためのノウハウや資源が整ってきたからこそ、新たにコーディネーターが配置されたエリアにおいても、先行してきたエリアと遜色なく事業が推進されている点は高く評価できることであります。

最後に気になった点としては、今回の事例はどれも地域の中に居場所を提供する取組だったことです。居場所があることは、交流を生み出し、住民同士の互酬性を高めるなど、地域活動を推進する際の基盤となります。近年は社会的な孤独や孤立への問題意識が高まるようになり、居場所の重要性も認められやすくなりました。しかし、居場所がゴールではないということ、また居場所では満たすことができない地域住民のニーズがあることを考え、居場所以外の取組を支援するノウハウが今後蓄積されることで本事業もより充実したものになるでしょう。

【資料編】

●セカンドライフ応援キャンペーン 協賛企業・団体 一覧 (敬称略)

見守り：調布市自治会連合協議会，調布市商工会，日本郵便株式会社調布郵便局，(公社)調布市医師会，(一社)調布市歯科医師会，(一社)調布市薬剤師会，東京電力パワーグリッド株式会社調布事務所，東京ガス株式会社西部支店，調布管工土木事業協同組合，ニコニコキッチン調布店，株式会社武蔵野フーズ，調布市民生児童委員協議会，調布市老人クラブ連合会，(社福)調布市社会福祉協議会，(公財)調布ゆうあい福祉公社，みずほ銀行調布支店，みずほ銀行調布仙川支店，三井住友銀行国領支店，三井住友銀行調布駅前支店，三井住友銀行つつじヶ丘支店，三菱UFJ銀行調布支店，三菱UFJ銀行仙川支店，東京スター銀行調布支店，きらぼし銀行調布支店，きらぼし銀行神代出張所，山梨中央銀行調布支店，横浜銀行調布支店，西武信用金庫柴崎駅前支店，東京三協信用金庫調布支店，芝信用金庫仙川支店，多摩信用金庫調布支店，多摩信用金庫調布北口支店，昭和信用金庫つつじヶ丘支店，昭和信用金庫多摩川支店，さわやか信用金庫調布支店，さわやか信用金庫多摩川支店，公益社団法人調布市シルバー人材センター，株式会社ゆうちょ銀行調布店，生活協同組合パルシステム東京，有限会社フジタグリーンシティ，東京都水道局，東京ガスリックリビング株式会社 東京ガスライフバル調布狛江，ライフデリ調布店，布亀株式会社，ヤマト運輸株式会社調布支店，多摩南生活クラブ生活協同組合，アルフレッサ株式会社，イースタンモータース調布株式会社，東都生活協同組合，生活協同組合コープみらい，東京都住宅供給公社，株式会社スズケン，藍澤証券株式会社アイザワ証券調布支店，株式会社セブン-イレブン・ジャパン，株式会社イトーヨーカ堂，株式会社調布清掃，株式会社吉野清掃，(一財)調布市市民サービス公社，京王不動産株式会社調布営業所，京王メモリアル調布，株式会社ファティック出張美容リンデン武蔵野三鷹，明治安田生命保険相互会社新宿支店，調布市新聞販売同業組合，株式会社マツダ (ASA仙川，ASA柴崎)，株式会社田仲新聞舗 (YC調布)，毎日新聞調布販売所 (毎日調布)，株式会社石川新聞店 (ASA調布，ASA調布北部，ASA国領)，産経新聞調布東部販売所 (産経調布東部，産経調布西部)，ASA調布西部，ASA西調布，YCつつじヶ丘仙川，読売センター南調布 明治安田生命保険株式会社 株式会社くらしの友 東京ヤクルト販売株式会社 **活動場所の提供**：(社福)寿真会特別養護老人ホームらくえん深大寺，(社福)東京かたばみ会特別養護老人ホーム神代の杜，株式会社東京スター銀行調布支店，クオール薬局調布店 **生活支援サービスの実施**：非特定営利法人たすけあいワーカーズ調布はこべ，**食の支援**：イトーヨーカ堂国領店，ライフクロスガーデン調布店，クイーンズ伊勢丹仙川店，マルエツ国領店，マルエツ調布店，東急ストア調布店，株式会社いなげや調布仙川店，株式会社いなげや ina21 調布染地店，キッチンコート西調布店，生活クラブ生活協同組合・東京デポー国領駅前店，トップフレッシュマーケット深大寺店，調布&木島平食の駅新鮮屋 **活躍の場の提供**：NPO 法人ちょこネット，しばさき彩ステーション，特定医療法人社団研精会東京さつきホスピタル 株式会社くらしの友 **介護予防活動支援の実施**：UMM&C 宇野医療経営コンサルタント事務所，クオール薬局調布店，電気通信大学大学院大河原研究室，日本調剤調布薬局，しばさき彩ステーション，特定医療法人社団研精会東京さつきホスピタル，明治安田生命保険相互会社 東京ヤクルト販売株式会社 **その他**：(子育て支援，世代交流支援)ぶくぶく・ポレポレの家，(職業相談・紹介)府中公共職業安定所，府中公共職業安定所調布国領しごと情報広場，(看取り，葬送相談等)SOGI サポートセンター，(スマホセミナー)ソフトバンク株式会社 (イベント(季節))しばさき彩ステーション

●第Ⅰ層地域支え合い推進員 活動件数

・活動区分

	訪問	来所	電話	メール	その他	合計
市全域	32	4	0	0	10	46

・相手方区分

	当事者	地域住民	ボランティア NPO	行政 (福祉)	行政 (福祉以外)	地域包括支 援センター
市全域	0	13	0	2	0	0
	民生児童 委員	その他 専門機関	企業商店	調布社協	その他	合計
市全域	0	3	—	16	62	96

・活動内容

	サービスの 創出	担い手の 養成	担い手の 活動する 場の把握	関係者間の 情報共有	連携の体制 づくり	ニーズと 取組の マッチング	PR	その他	合計
市全域	59	59	16	10	68	72	1	2	287

●第Ⅰ層協議体 開催回数

	開催回数	参加延人数	活動内容
市全域	4	55	セカンドライフ応援キャンペーン運営検討会

●第2層地域支え合い推進員 活動件数

・活動区分

福祉圏域 (小学校区)	訪問	来所	電話	メール	その他	合計
緑ヶ丘・滝坂	313	84	151	139	123	810
若葉・調和	429	106	223	81	84	923
北ノ台・深大寺	263	95	84	323	135	900
第二・八雲台・国領	182	87	111	38	102	520
染地・杉森・布田	379	106	246	386	157	1,274
第三・石原・飛田給	342	100	210	70	97	819
合 計	1,908	578	1,025	1,037	698	5,246

・相手方区分

福祉圏域 (小学校区)	当事者	地域住民	ボランティア NPO	行政 (福祉)	行政 (福祉以外)	地域包括支 援センター
緑ヶ丘・滝坂	4	385	52	46	9	96
若葉・調和	31	342	57	53	21	73
北ノ台・深大寺	13	274	23	102	14	51
第二・八雲台・国領	15	147	23	33	7	39
染地・杉森・布田	12	434	63	126	12	59
第三・石原・飛田給	4	319	114	44	42	59
合 計	79	1,901	332	404	105	377

福祉圏域 (小学校区)	民生児童 委員	その他 専門機関	企業 商店	調布社協	その他	合計
緑ヶ丘・滝坂	11	129	58	207	23	428
若葉・調和	28	112	70	165	43	418
北ノ台・深大寺	37	149	216	178	18	598
第二・八雲台・国領	34	73	51	121	59	338
染地・杉森・布田	16	164	251	271	29	731
第三・石原・飛田給	39	101	59	209	49	457
合 計	165	728	705	1,151	221	2,970

・活動内容

福祉圏域 (小学校区)	サービスの 創出	担い手の 養成	担い手の 活動する 場の把握	関係者間の 情報共有	連携の体制 づくり	ニーズと 取組の マッチング	PR	その他	合計
緑ヶ丘・滝坂	181	196	189	555	567	209	110	49	2,056
若葉・調和	242	129	401	464	527	298	218	64	2,343
北ノ台・深大寺	206	77	123	644	261	183	49	68	1,611
第二・八雲台・国領	140	47	137	270	228	131	82	104	1,139
染地・杉森・布田	227	111	212	1,071	563	446	159	37	2,826
石原・第三・飛田給	131	72	114	740	697	502	68	17	2,341
合計	1,127	632	1,176	3,744	2,843	1,769	686	339	12,316

●第2層協議体 開催回数

	開催回数	参加 延人数	活動内容
緑ヶ丘・滝坂	26	264	空とべ!つつじ, ネットスマホを楽しむ会など
若葉・調和	10	71	ヤングケアラーについて考える会, 坂の上のばあちゃん家ミーティングなど
北ノ台・深大寺	18	293	野ヶ谷の郷役員会, 北ノ台ふれあい朝市, ふじみ地区自治会等連合会など
第二・八雲台・国領	27	289	二小地区もりあげ隊, ちくちくの会, サロンこまちなど
染地・杉森・布田	37	753	にぎわいのある街をつくる会, たまの手, まちづくり協議会など
石原・第三・飛田給	5	27	シニア向けスマホ講座, 高齢者の見守り活動, 飛田給BASEと地域の協働など
2層圏域合同協議体	5	135	スマホ情報交換会, ダブルケアおしゃべりの会, ひだまりサロン交流会
合計	128	1,832	

普及啓発 開催回数

	開催回数	参加 延人数	活動内容
緑ヶ丘・滝坂	4	48	ネットセキュリティ教室, 10筋お試し会
若葉・調和	6	100	マイナンバーカード普及講座, 10筋お試し会, 活動紹介
北ノ台・深大寺	1	16	ACP人生会議
第二・八雲台・国領	1	30	今さら聞けない新型コロナウイルス感染症(学習会)
染地・杉森・布田	11	217	マイナンバーカード普及講座, 防災講演会, 10筋体操など
石原・第三・飛田給	5	76	10筋体操お試し会, 支え合い推進員講座, スマホ講座
2層圏域合同普及啓発	6	125	スマホ活動者交流会, スマホボランティア養成講座, 居場所見学会など
合計	34	612	

【困ったときは】



●地域包括支援センター連絡先

名称	電話番号	所在地
つつじヶ丘	☎ 03 (5315) 5400	東つつじヶ丘1-5-2
仙川	☎ 03 (5314) 0030	若葉町2-22-2 1階
至誠しばさき	☎ 042 (488) 1300	柴崎1-6-8 鴨志田荘2-1F
はなみずき	☎ 042 (441) 5763	深大寺北町4-17-7
ゆうあい	☎ 042 (481) 4973	国領町3-8-15-5-109
サブセンター	☎ 042 (484) 8011	八雲台1-22-1 1階
ときわぎ国領	☎ 050 (5540) 0860	国領町7-32-2-101
ちょうふ花園	☎ 042 (484) 2285	小島町2-45-22 1階
ちょうふの里	☎ 042 (441) 6655	西町290-5
サブセンター	☎ 042 (444) 5151	上石原3-54-2

●地域包括支援センターとは

高齢者のご家族のための総合相談窓口です。介護予防をはじめ様々なサービスの利用や、虐待の早期発見・防止など、高齢者に関する総合的な相談をお受けします。相談・支援には、社会福祉士、保健師及び主任ケアマネジャーなどが担当します。また、最近ご近所の方の様子が変だなといった時にも、地域包括支援センターにご連絡ください。

●第二層：地域支え合い推進員

福祉圏域	担当者	担当地域一覧
緑ヶ丘・滝坂 小学校地域	 高杉 友美	仙川町1～3丁目，緑ヶ丘1丁目・2丁目， 菊野台1丁目の一部， 東つつじヶ丘1～2丁目・3丁目の一部， 西つつじヶ丘1～4丁目の一部， 若葉町1丁目の一部
若葉・調和 小学校地域	 吉田 智咲	東つつじヶ丘3丁目の一部， 西つつじヶ丘3・4丁目の一部， 入間町1～3丁目， 若葉町1丁目の一部・2丁目・3丁目， 国領町8丁目の一部， 菊野台1丁目の一部・2丁目・3丁目
北ノ台・深大寺 小学校地域	 志村 知香	深大寺北町1～7丁目，佐須町1丁目の一部， 深大寺元町2丁目の一部・3～5丁目， 深大寺東町1丁目・2丁目的一部分・5～8丁目， 深大寺南町1～3丁目的一部分・4丁目・5丁目的一部分
第二・八雲台・ 国領 小学校地域	 矢田 千絵	佐須町3丁目的一部分， 調布ヶ丘2丁目・3丁目的一部分， 八雲台1丁目・2丁目， 国領町1～5丁目，8丁目的一部分， 布田2丁目・3丁目
染地・杉森・ 布田 小学校地域	 北島 正也	国領町6～7丁目，染地1～3丁目， 布田5～6丁目，多摩川6～7丁目
第三・石原・ 飛田給 小学校地域	 佐藤 歩	飛田給1～3丁目，上石原1～3丁目， 富士見町1丁目・2丁目的一部分・3～4丁目， 下石原1～3丁目的一部分， 野水1丁目・2丁目，西町

※上記地域以外もご相談等，受付しております。

問い合わせ先：調布市社会福祉協議会 地域支援担当

調布市小島町2-47-1 総合福祉センター内

電話：042-481-7693 FAX：042-481-5115

メール：chofu-co@ccsw.or.jp

セカンドライフ応援キャンペーンに関するお問い合わせ

問い合わせ先：調布市福祉健康部高齢者支援室 地域包括ケア推進係

調布市小島町2-35-1

電話：042-481-7150 FAX：042-481-4288

メール：kourei@city.chofu.lg.jp

令和4年度

調布市生活支援体制整備事業報告書

(地域支え合い推進員活動報告書)

発行日 令和5年8月
発行 調布市福祉健康部 高齢者支援室
社会福祉法人 調布市社会福祉協議会
編集 調布市福祉健康部 高齢者支援室

刊行物番号
2023-103

〒182-8511 調布市小島町2-35-1
(電話) 042-481-7150 (直通)
(ファクス) 042-481-4288
(URL) <http://www.city.chofu.tokyo.jp/>
